
ARIA ~The each music~

紫藤 蓮見

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ARIA ~The each music~

【Zコード】

Z5324D

【作者名】

紫藤 蓮見

【あらすじ】

ネオ・ヴェネツィアでのユウラ（オリジナルキャラ）の人々との出会いと穏やかな生活。少し音楽の話も（できたらいいな）。

一話（前書き）

ARIAの一次創作です。

アニメを見て癒された人間です。マンガ持つてません。世界観が少しづれるかも（故意ではないです）。

男オリキヤラが主人公。

以上のことがないやな人、見ることをすすめません。

ネオ・ヴェネツィア。広い海と高い空を持ち、季節¹⁾とに様々なお祭りの開かれ、多くの観光地が存在する、芸術の町だ。

「ウラ・クライヴは一年ぶりにこの地に訪れた。

宿泊先のフラットにあまり大きくない旅行バッグと肩に掛けた楽器ケースを置き、コウラは一本の電話をかける。

「はい、アリアカンパニーです」

「……えーと、アリシアさんじやありませんよね…」

「…ほへ？」

水無灯里^{みずなし あかり}は電話の主の第一声に疑問の声を上げた。聞くところによると、電話の彼は自分がARIACANPANYに来る前アリシアさんとの交友のあつた人物で、新しい見習いの声に少しどまどつたのだそうだ。

「すいません。アリシアさん今日は予約いっぱいで、お名前お聞きしてもいいですか？」

「コウラ・クライヴといいます。よろしく」

「コウラさん……じゃあ、アリシアさんが帰つてきましたね」「あ、いや忙しそうなのでついででいいですから」

そう言ひと、コウラさんは電話を切つた。それにしてもコウラ・クライヴどこかで聞いた名だ。
すると大事なことに気がつく

「はわわわ、連絡先聞くの忘れてしましたよ」アリア社長一^{じう}しょ~」

「ふ～いにゅ」

残念だな。コウラは電話を置き、これからどうじょうがと考え始める。超絶的幸運でアリシアさんの水先案内を飛び入りで受けられるのが一番よかつたのだが、かなり無理があつたようだ。町の散策でもしようか。

水と芸術の町ネオ・ヴェネツィアにコウラは足を踏み出した。

一話（後書き）

更新かなり遅くなると思います。文章稚拙ですいません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5324d/>

ARIA ~The each music~

2010年10月10日13時10分発行